

久工大生が久留米絣支援

久留米絣くわすりの製造工程の「くくり」作業をサポートしようと、久留米工業大（久留米市上津町）の工学部の学生たちが奮闘している。試作した糸切れ検知器は職人の負担軽減が期待され、その検知器を試すために開発した小型のくくり機は、新しい絣のデザインの試作品を作成しやすいとして業界の注目も集めている。

久留米絣では、束ねた糸に別の糸を巻き付けて染色しないう部分を作るためのくくり作業や、織りなどの複数の工程に機械を導入している例がある。しかし稼働中の糸切れなどを検出する機能は付いておらず、職人が常に糸の状態を確認をしている。そこで機械の部品製造などで協力を得ている久工大に相談。澁谷秀雄教

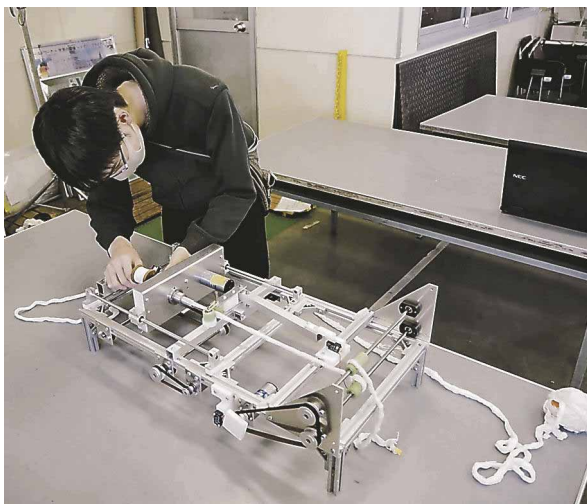
池田さんは「1反分の糸をくくり、試作品を提供できるようにすれば、他の企業と連携できる可能性が大きく広がる」と期待する。久工大の研究に助言などした坂田織物（広川町）の坂田和生代表取締役は「検知器もくくり機も実用化されれば、久留米絣の発展に大きく貢献してくれる」と話した。

サンプル作り容易に

授のゼミが、センサーを利用した検知器の試作品を約1年かけて開発した。

さらに検知器の機能を試すために作ったくくりの機械は

小型で高性能。各織元が活用しているくくり機は、36反分の糸を効率よく一度にくくるために開発されたもので、少量の糸をくくることはできない。このため、久留米絣などの伝統工芸品を扱う八女市の



久留米工業大が試作した糸切れ検知器とくくり機
（久留米工業大提供）

糸切れ検知器と小型くくり機試作